



[交通案内]
京王相模原線、JR横浜線・相模線 橋本駅南口(東側階段)より徒歩約12分

令和2年8月 発行

編集・発行 アートラボはしもと(相模原市市民局文化振興課)

平成31年度(令和元年度)

所長 興津 明喜
学芸員 加藤 慶/柳川 雅史(再任用)
美術専門員 中尾 拓哉/森崎 由衣/高橋ひかり
堀越蒔李子/湯原 理紗/竹谷 一平

令和2年度

所長 松島 政幸
学芸員 加藤 慶/柳川 雅史(再任用)
美術専門員 中尾 拓哉/高橋ひかり/堀越蒔李子
越智波留香/高橋 玉恵/富田さゆり

お問い合わせ 〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町1-43
TEL.042-703-4654 FAX.042-703-4659
E-mail: artlabo@city.sagamihara.kanagawa.jp
URL: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

印刷 有限会社オフィスジオ (<http://www.gio.co.jp>)

表紙写真 | オープンラボ2019より 風景のありか制作風景

Art Laboratory Hashimoto

Annual Report 2019

2019.04-2020.03



アートラボはしもと

2019年度 年次報告書

2019年度

アートラボはしもの 8年目

アートラボはしもと(以下、アートラボ)は、マンションギャラリーだった建物を相模原市が譲り受けて再利用し、アートの活動拠点として開館した施設です。平成24年の開館以降、周辺にある美術系大学などと連携し、そこで学ぶ美大生や卒業生、子どもたちや地域の方々、商店街や企業、小中学校、市民グループなどと協力し合いながら、多彩なアート事業を展開しています。

活動方針

01 アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する



02 様々な主体との協働や異分野との連携を進め、アートを通じたコミュニティの形成やまちの賑わい作りを推進する



03 地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する



オープンラボ2019より「みんなの図工室」の様子



平成30年4月より、相模原市(以下、本市)橋本地区における美術施設の整備に関する検討委員会において、アートラボの再整備に伴う後継施設についての協議が進められ、令和元年10月には建議書が提出されました。令和元年度は、その協議内容をもとに立ち上げた「オープンラボ」「工作あそび」「まち×ラボ ワークショップ」の3事業をさらに充実させることを目標に取り組みました。

まず、公開制作プログラム「オープンラボ2019」では、制作中のアーティストの近くで工作ができる「みんなの図工室」を新たに設置。来場者が制作活動を見るだけでなく、同じ会場で制作を楽しむことで鑑賞と体験の相乗効果が生まれ、来場者のアートへの関心を一層高める結果につながり

ました。「工作あそび」は、アーティストを講師として招いたことで、来場者が気軽に参加できる独創性に富んだ工作プログラムを用意できました。そして、「まち×ラボ ワークショップ」では、市内各地のイベントの事前リサーチをもとに、相模湖付近の里山で開催された「たねまめマルシェ2019」に参加し、その土地の歴史にまつわるワークショップ(以下、WS)を実施しました。当館は、多くの美大生やアーティストが生活し、作品を制作している本市の特色を活かした取り組みを今後も続けていきます。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、2月下旬以降に予定されていた事業が中止・延期となりました。複数の大学・大学生が参加する事業や他分野との大規模な連携事業が実施できなくなったことは非常に残念ですが、準備の段階から生ま

れたアイデアや課題を今後の事業でも活かせるように、しっかりと検証を重ねていきたいと考えています。

当館は平成24年の開館にあわせて、女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学と本市による「アートラボはしもとに関する基本協定」を締結し、将来の美術施設運営に必要な知識・経験を蓄積するために、これまでさまざまな事業を各大学と実施してきました。その結果、この8年の間にそれらのノウハウが蓄積されたため、本市と大学で協議し、両者合意の上、基本協定は更新しないことになりました。次年度から当館は新たな局面を迎えますが、後継施設における大学連携の新しいあり方を引き続き探っていききたいと考えています。

見るドキドキ つくるワクワク

アートラボの公開制作プログラム！

オープンラボ2019

会期 | 公開制作: 令和元年7月27日(土)～8月18日(日)
 成果発表: 令和元年8月24日(土)～9月1日(日)
 会場 | アートラボはしもと
 主催 | アートラボはしもと(相模原市)
 後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
 (女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)

「オープンラボ」は、アーティストが当館に滞在し作品を制作する様子を公開するプログラムです。今年度は3組のアーティストが公開制作を行い、それぞれの制作にちなんだWSを実施しました。

さらに、会期中いつでも・だれでも工作ができる図工室を設置したほか、子ども向けワークシートの配布、アーティストの制作の様子がわかる絵日記風の記録の掲示を行いました。制作の様子を見るだけでなく、来場者も制作を体験できるコンテンツを盛り込んだことで、子どもから大人まで幅広い世代の方々がアーティストの活動を身近に感じられるプログラムになりました。



WSの様子



公開制作の様子



WSの様子



交流の様子



成果発表①



成果発表②



交流の様子



公開制作の様子



成果発表①



成果発表②



アーティスト 冠婚葬祭

時山桜、今井しほか

東京造形大学美術学科絵画専攻出身の2人によるユニット。日常の中にある、プライベートな出来事や感情を拾い上げ、作品制作やパフォーマンスを行う。

冠婚葬祭はまず2人1組で参加者を募り、2人が一緒に経験した「相撲大会」「初めて乗った飛行機」「とろけるハンバーグ」などの「うれしい」気持ちを作品にするWSを実施しました。公開制作では、そのWSで生まれた作品をもとに、冠婚葬祭が新たに作品を生み出すという、作品を介したコミュニケーションに挑戦。成果発表では、WS参加者の作品とそれに呼応した冠婚葬祭の作品と一緒に展示され、会場には「うれしい」気持ちが満ちていました。

ワークショップ うれしい形をつくらう！

日時 | 令和元年7月28日(日)・8月3日(土) 14:00～16:00

アーティストの声

- 普段している制作を言語化したり、WSを通して市民の方と共有してみたり、色々な化学変化が起こってとても楽しかったです。制作や作品に対して、様々な人から感想をもらえたことが嬉しかったです。(時山)
- WSが本当に大変でしたけど、元々考えていたものより何倍もいいものができて、嬉しさを通り越して感心しました。(今井)

来場者・WS参加者の声

- 皆さんの作品とそれについてのエピソードを聞けて面白かったです。自分自身の作品についても深く掘り下げて考え、思い出すことで意識の上でいかなかった思いに気づくことができ良い経験となりました。(WS参加者)
- 日常の小さな幸せを見つけて形にするWS。リレー形式で冠婚葬祭の2人が作品にしてください。WSに参加させていただいたのですが、うれしい気持ちがつながって広がっていくのがうれしかったです。(WS参加・来場者)



アーティスト たうもっく

クニモチユリ、胡周華、中庭恵穂、滑良奈央、宮崎咲希、谷内尾憲

多摩美術大学絵画学科版画専攻4年有志によるグループ。木版画の表現を起点としながら、「モデルルーム」という空間と作品とのつながりを意識した制作を試みている。

ワークショップ 木版画で自分だけの世界をつくらう！

日時 | 令和元年8月11日(日)・18日(日) 13:30～15:30

アーティストの声

- 「連想させること」が鑑賞で上手く生きてくれば良いな、と考えながら制作しているので、毎回新鮮な反応をしていただけて、より客観的に作品を作っていける材料が得られました。(クニモチ)
- WSなど、子どもと接して自分の制作に刺激を受ける場面が多くありました。自分が当たり前と思っていたことが、市民の方には驚かれたりしたことがあり、話していて面白かったです。(宮崎)

たうもっくは、当館2階のモデルルームのベランダやトイレ、廊下など、メンバーそれぞれが気になった場所や物をあえて1階の広いスペースに仮設し、その部分に焦点を当てた作品を制作しました。成果発表の会場には、そのようにして制作と部屋との関係性についてじっくり考えられた作品が展示されました。また、木版画の「摺り」の工程を体験できるWSも実施し、市民に木版画の魅力を伝えました。

来場者・WS参加者の声

- モデルルームという実際には誰も暮らしていない場所に、多くの人が体験する日常が落とし込まれていた。作品を見て、それらを想像したり、自分の生活を思い出したりした。アーティストそれぞれのモデルルームへのアプローチが違うのが、これからの制作がどうなるのか気になった。(来場者)
- 短い時間で木版画の魅力を体験することができて想像以上に楽しかったです。同じ版を使っても、それぞれ個性的な仕上がりになることが意外な発見でした。(WS参加者)



はっけんシート

制作するアーティストの様子や作品について「はっけん」したさまざまなことを絵や言葉で表現するワークシートを配布。「バツと見るとなにかわからないけど、なんだかふしぎな気持ちになる」など、会場を訪れた子どもたちから100を超える「はっけん」が集まりました。



みんなの絵日記

「みんなの絵日記」は、公開制作の様子に加えて、WSの準備など開館中には見られなかったアーティストの様子を日ごとにつづった絵日記です。各日集まった「はっけんシート」と一緒に掲示し、会期中の出来事を来場者に伝えました。



アーティスト・トーク

日時 令和元年8月24日(土) 13:30~15:00

参加アーティスト3組と一緒に、成果発表の会場を巡るトークイベント。展示作品の解説をはじめ、印象的な出来事や来場者とのエピソード、初めてのWS企画・運営など「オープンプラボ2019」に対する参加アーティストそれぞれの感想が直接聴ける機会となりました。



公開制作の様子



交流の様子



成果発表①



成果発表②



WSの様子



アーティスト 風景のありか

村上佳苗、石原七生、上野和也、加藤真史

多摩美術大学・大学院卒業生によるユニット。素材やモチーフに向かう姿勢の「泥臭さ」と、自然や景観に出会い、自らの内面とやりとりすることを制作の軸としている。

来場者との話し声や笑い声が充満し、常に活気あふれる雰囲気の中で風景のありかの制作は行われました。メンバー同士の作品が相互に影響し合う成果発表の空間は、そうしたやり取りの痕跡、視点の交差が表れているようでした。当館のモデルルームから着想を得たWSでは、参加者はアーティストと「家の顔」とも言われる玄関について対話を重ねながら、自宅の玄関に飾る絵をつくりました。

ワークショップ 玄関に飾る絵を描こう!

日時 | 令和元年8月17日(土) 13:00~16:00

アーティストの声

- 時折通りかかる「みんなの図工室」の子どもたちの制作の様子や、自分の制作スペースまで聞こえてくる彼・彼女たちの声が興味深く、昔を思い出すこともありました。(加藤)
- 最初に見に来てくれた小学校の女の子の、熱心に話を聞きリアクションしてくれる姿勢が印象的でした。また、気になるポイントが作家とはまた違う(描かれている人の数や油彩・水彩の技法的なもの)のが新鮮でした。(村上)

来場者・WS参加者の声

- 完成した作品に自分らしさを出す、というのは聞いたことがあるけれど、作品を完成させる過程に自分らしさを出す、という考え方は初めて聞いた。目から鱗…すてきなと思った。(来場者)
- 1から自分で考えて絵を描くということで少し難しいかなと思ったのですが、色々と相談のついでにもらえたり考え方を教えていただいたり手厚く見てもらえたのが良かったです。(WS参加者)

みんなの図工室

当館で過去に実施したWSの材料や道具がたくさん並ぶ、いつでも・だれでも参加できる工作コーナー。参加アーティストの図工体験を参考に、博物館学芸員実習生が考案した工作を日替わりで実施しました。参加者のアイデアから、ボールを転がして遊べる宇宙空間「みんなの宇宙」が生まれるなど、自由度の高いプログラムとなりました。



全身自画像リレー



風景のありかの経験が原案の工作。頭の前からつま先まで、等身大の人物像で他の参加者の人物像とリレーしました。

みんなの宇宙



毎日たくさんの方と協力して、宇宙ステーションや宇宙人など展示する作品を少しずつ増やしていきました。

テープで花をつくろう



冠婚葬祭の経験が原案の工作。細かい作業や難しい作業は博物館学芸員実習生と一緒に進めました。



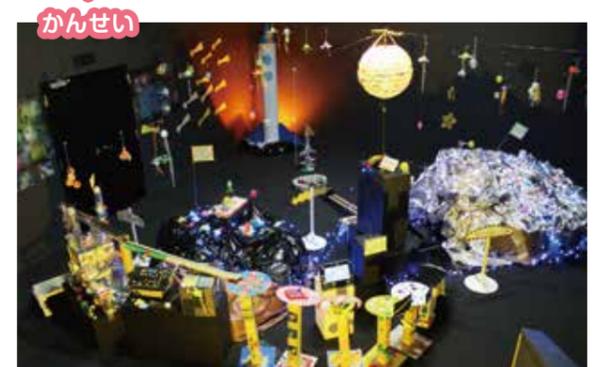
つくったからくり装置で遊びながら、さらに工作のアイデアをふくらませました。

博物館学芸員実習生の声

- あたりまえの事や何気ない事でも、発見や驚きと子どもたちに教えてもらうことがとても多くありました。
- 子どもたちの意見を聞いて、そこから何ができるのかを皆で考えながらすすめていけたのがとても良かったと思います。

参加者の声

- 体験、参加できるのが良いですね。孫が喜んで参加していました。
- ボールころがしがとても良くできていて楽しめました。アイデアがいっぱいでもた見に来たいです。



ついに完成!大きなからくり装置と大小さまざまな惑星が点在する、幻想的な宇宙空間になりました。

アーティスト主導で継続されるオープンスタジオ・プロジェクト

SUPER OPEN STUDIO 2019

今年で7年目を迎える「SUPER OPEN STUDIO (以下、S.O.S.)」は、美術大学が多い本市および近隣地域において、卒業生たちが工場や倉庫物件をリノベーションして制作を続けているスタジオ(制作現場)を公開するプログラムです。

今年度は、23軒のスタジオ所属アーティストおよびゲストアーティスト計116名が参加。各スタジオでは作品展示やパフォーマンスなどが実施され、さらにそのなかの複数のスタジオで計21名のゲストアーティストを招いた展示やイベントが開催されました。また、スタジオ所属アーティストのつながりから、埼玉県の嵐山町にあるRANZANSTUDIOがゲストで参加するなど、さらなるネットワークの拡大を試みました。

会期 | 令和元年10月12日(土)~11月4日(月・休)
 主催 | SUPER OPEN STUDIO 2019 実行委員会
 (Super Open Studio NETWORK・アートラボはしもと)
 共催 | アートラボはしもと(相模原市)
 助成 | 公益財団法人 朝日新聞文化財団
 協賛 | 東京造形大学校友会・多摩美術大学校友会・株式会社 studio ban
 後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
 (女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)



- 01 pimp studio
- 02 LUCKY HAPPY STUDIO
- 03 STUDIO ISSEI / ゲルオルタナ
- 04 studio kelcova
- 05 相原スタジオ
- 06 STACK ROOM
- 07 アトリエボイス
- 08 RED IRON STUDIO
- 09 LION
- 10 モグスタ Moge Studio
- 11 クンストハウス
- 12 ESA
- 13 STUDIO 牛小屋
- 14 REV
- 15 TANA Studio
- 16 アトリエ 481
- 17 STUDIO VOLTA
- 18 STUDIO カタクリコ
- 19 RMP
- 20 Bartleby
- 21 studio ban
- 22 SPECIAL FEELING STUDIO
- GI RANZANSTUDIO
- AL アートラボはしもと

マップ上の番号は下の各スタジオの写真と対応しています。

ガイドブック

スタジオ探検! ガイドブック「てくてく」

アートに興味のある市民や子ども向けに、当館から徒歩圏内のスタジオを紹介する冊子を作成・配布しました。



バスツアー スタジオビジット・バスツアー

日時 | 令和元年10月20日(日) 12:00~18:00、
10月26日(土)・10月27日(日)・11月2日(土)・11月3日(日)・11月4日(月・休) 12:00~15:00、15:00~18:00



アーティストの案内で各スタジオを巡るバスツアー。移動中、案内役のアーティストがこれから訪れるスタジオの説明や裏話など興味深い話題を提供しながらまわります。今年は6日間実施し、埼玉県にあるゲストスタジオRANZANSTUDIOまで足を伸ばした初の長距離ツアーも敢行しました。

参加者の声

- Studio自体が離れているのでバスでまわるのありがたいです。アーティストさんがアテンドしてくれて話をきけるのがよかった。アートが身近に感じられた。
- スタジオにはそれぞれの作家の世界観がありとても共感出来る部分があった。雑多なアトリエに自身もエネルギーをもらいました。

その他 スタジオステイ

会期 | 令和元年10月12日(土)~11月4日(月・休)
参加者 | 今村育子、風間天心、櫻見菜々子、川上大雅、進藤冬華、高橋喜代史、武田浩志、西田卓司、山本雄基(なえぼのアートスタジオ)、竹崎和征(竹二郎三郎 丸亀)、青田真也(Minatomachi Art Table, Nagoya)、北村和也(すさきまちかどギャラリー)
会場 | STUDIO 牛小屋、REV、クントハウス
協力 | アートラボはしもと、小山市立車屋美術館、黒部市美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野



北海道、愛知県、香川県、高知県の4地域で活動するアーティストスタジオ、アートセンター、美術館などの組織を本市のスタジオに招きました。各地域の活動を伝える展示とともに、組織やアーティストが新たなネットワーク構築のための交流をしました。

トーク シンポジウム「美術のプレゼンスを確保するために#2」

日時 | 令和元年11月3日(日) 19:00~21:00
登壇者 | 天野太郎、日比谷安希子(横浜市民ギャラリーあざみ野)、青田真也(Minatomachi Art Table, Nagoya)、加藤慶(アートラボはしもと)、川鍋達(すさきまちかどギャラリー)、竹崎和征(竹二郎三郎 丸亀)、塚本麻莉(高知県立美術館)、中尾英恵(小山市立車屋美術館)、山根一見(REV)、山本雄基(なえぼのアートスタジオ)



スタジオステイの参加者と本プログラム協力機関関係者が登壇したシンポジウム。開催前には、バスで複数のスタジオをまわり、S.O.S.と各地域における現状の課題や危機感を照らし合わせて、前向きに活動していくための情報共有、意見交換が行われました。

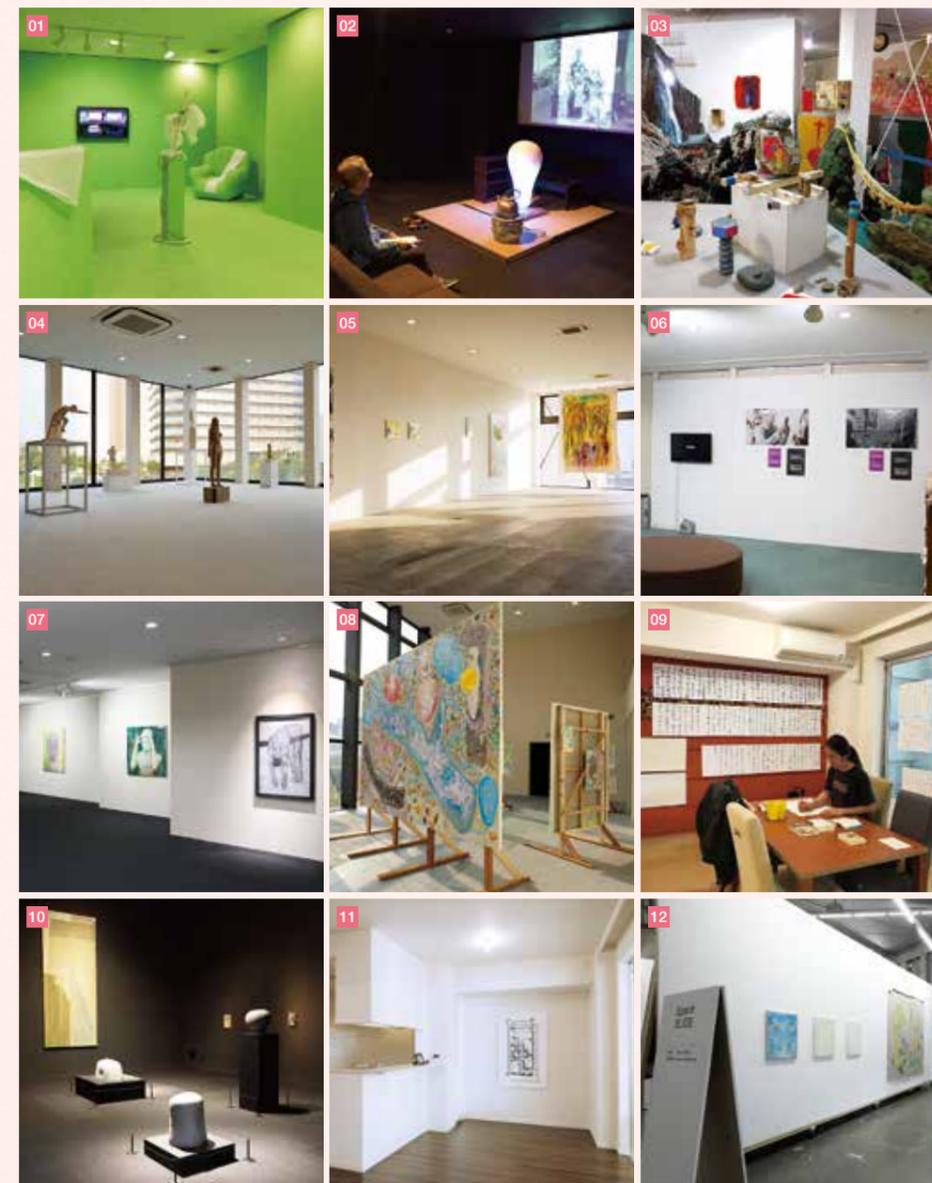
展覧会

SOMETHINKS

会期 | 令和元年10月12日(土)~11月4日(月・休)

各スタジオのアーティストの有志が企画した複数の展覧会を同時開催する「SOMETHINKS」。今年は当館と東京造形大学CSLABの2会場で展開され、アーティストによるWSや公開制作、パフォーマンスなども行われました。

01. アイム アダミー
企画 | 千原真実 (REV)、アーティスト | 石井麻希
02. 父のアルバム
企画・アーティスト | 尾山久之助 (ESA)
03. ラブ・バトル
企画 | 内海仁 (クントハウス)
アーティスト | 石坂翔、内海仁、小出ナオキ、田中愛子、森本一朗 (STUDIO カタクリコ)、吉原宏紀 (アトリエ 481)
04. grove
企画 | 石川慎平 (pimp studio)
アーティスト | 石川慎平、伊藤幸久
05. Island
企画 | 吉岡知秋 (pimp studio)
アーティスト | 福永大介、水上愛美 (RED IRON STUDIO)、宮林妃奈子、吉岡知秋
06. ゲリバラ安全振興会
企画・アーティスト | 長瀬亮 (Bartleby)
07. 立ちかた
企画・アーティスト | 北村拓之 (LUCKY HAPPY STUDIO)
08. Compost Paintings
企画 | 中村太一 (TANA Studio)
アーティスト | 赤羽史亮
09. 政治家のモデルルーム(部屋)「政治とアートNo.1(公共性)」
企画・アーティスト | 男澤洋一郎 (STUDIO VOLTA)
10. バレットと線
企画・アーティスト | 大迫寿菜 (pimp studio)、渡壁遥 (LUCKY HAPPY STUDIO)
11. Some or Same
企画・参加者 | 佐々木耕太 (REV)、中尾拓哉 (アートラボはしもと)
12. ジャンクション
企画 | 小山権子 (REV)
アーティスト | 小山権子、下山健太郎
[会場] 東京造形大学 CSLAB



ワークショップ 不思議な1ページの絵本

日時 | 令和元年10月20日(日) 13:30~16:00
講師 | 渡壁遥 (LUCKY HAPPY STUDIO)
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

自らが経験した不思議な出来事をイメージや言葉に置き換える、という講師の制作に基づいたWS。参加者は言葉のピースを選び取ったり、さまざまな色が塗られたキャンバスを切り抜いたり、言葉とイメージの置換をくり返すことで生じるズレを楽しみながら、講師の制作への理解を深めていきました。



参加者の声

- ストーリーから文字・色などのイメージを抽出する作業がおもしろかったです。勉強になりました。

その他

S.O.S. BOOK 2019

デザイン | 今井しほか (LION)

100名以上の所属アーティストへのアンケート調査を実施。「あなたにとってSUPER OPEN STUDIOとは?」など率直な質問から、一人ひとりのS.O.S.との向き合い方を知ることができ、一冊になりました。





MODELROOMING × HASHIMOTATION



多摩美術大学絵画学科 版画専攻4年有志校外展

会期 | 令和2年1月16日(木)~26日(日)
会場 | アートラボはしもと
主催 | 多摩美術大学
共催 | アートラボはしもと(相模原市)
後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
(女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)

「たうもっく」(P4)のメンバーによる、2つのモデルルームにそれぞれ異なるテーマを設定した展覧会です。

一方のモデルルームでは、トイレ、キッチンなど空間の特性に焦点を当てながら、各メンバーの作品の個性を活かした展示を行いました。もう一方のモデルルームでは、試し摺りや摺り損じなど、作品の副産物とされるものと作品を織り交ぜて展示することで、それらの境界線を曖昧にし、版画制作の過程で生まれるものと作品との関係性を再考しました。空間と作品、副産物と作品。版画の制作者ならではの視点で構成された展覧会になりました。

トーク

拡張する展覧会の土台、またその動向について

日時 | 令和2年1月25日(土) 17:00~18:30
ゲスト | 内田百合香、船戸厚志(春のカド)

元店舗や元集合住宅などで展覧会企画を行っているゲストを招き、ホワイトキューブとモデルルームでの作品の見え方・見せ方の違い、そして近年の展覧会の動向について語り合いました。



来場者・トーク参加者の声

- 今回の展示では「部屋に飾る絵」ではなく部屋と作品が一体化していて、不思議な感覚になりました。(来場者)
- 作品がルームシェアをしているようで面白かったです。(来場者)
- クニモチさんが準備している段階から度々話を聞けるタイミングがあったので、本展覧会もトークも楽しみにしていました。展示内容も見こたえよく、すばしかったです。(トーク参加者)

会期 | 令和元年9月7日(土)・8日(日)・14日(土)・15日(日)・16日(月・祝)・21日(土)・22日(日)・23日(月・祝)
会場 | アートラボはしもと
主催 | 風景のありか
共催 | アートラボはしもと(相模原市)
後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
(女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)

本展は、アーティストユニット「風景のありか」(P5)が、当館のモデルルームで「展示空間そのものを作品化する」ことを試みた展覧会です。故郷の景色や地域の伝承など、メンバーそれぞれの視点でさまざまな人々の暮らしや風景をとらえた絵画作品や立体作品が部屋中に展示され、さらにメンバーの自宅にあったマンガや置物、モデルルーム備えつけの食器や家具も、あえて作品と干渉し合うように配置されました。

モデルルームのなかに暮らしの風景や生活感が多角的に表現されながらも、空間全体は一つの作品として仕上げられています。

ワークショップ オリジナル観光ペナントを作ろう!

日時 | 令和元年9月7日(土) 13:00~16:00

参加者の見慣れた場所をペナントにすることで、観光名所へと様変わりさせてしまうWSです。参加者が持参した「なじみの場所の風景写真」についての思い出を語り合い、和気あいあいとした雰囲気の中作品づくりが行われました。



来場者・WS参加者の声

- 絵画制作に取り組まれる方々の、作品に対する解説や想いを聞く事が出来、貴重な体験をさせて頂きました。(来場者)
- 絵の具を混色して筆で塗る、という経験自体が約40年ぶり、その時点ですでにワクワクしていました。アーティストさんに教えてもらいながら制作できる、というゼイタク。自分のものも含め、参加者のみなさんの作品にそれぞれの思い出や思い入れが(今はない)ペナントという形で凝縮できた、とても楽しいWSでした。(WS参加者)

作家コラム 漂流の記録

私たち「風景のありか」の展示は「漂流の記録」そのものだった。「風景のありか」は、誰かがテーマを設定し、他を牽引しながら目的地を目指すのではなく、4人を一組として見えて来るテーマに向けて、4人で考えながら並んで進むような方法をとっていた。船頭なして目的地を定めず航海に出たようなもので、漂流したのも無理はないと思う。ただし私たちはそれぞれが思考を止めない漕ぎ手として、お互いへの敬意と興味を動力に、他愛無い情報共有から丁寧な意思疎通まで様々

に交流を重ねた。それはテーマである「展示空間そのものを作品化する」ための「お互いの作品を預け合う」関係性を相当に確かなものにしたし、「風景のありか」のアイデンティティの発見にもなった。

そしてアートラボはしもとで連携事業として開催させて頂いたことで、スタッフの方への企画説明や意見交換の機会があり、自覚していなかった企画の甘い部分を詰められたほか、ワークショップで普段接点のない幅広い年齢層の方との展示を通じた関わりができ

風景のありか 代表 村上佳苗

たことで、思いもよらない角度からの思考のきっかけになった。

展示を終えるまでの一連の経緯は、普段の制作・発表とはまた勝手の違う環境で苦戦しながらも、ひたすら自分たちの位置を確かめ、「風景のありか」が何なのかを探り続けた漂流だった。この漂流で得た収穫を燃料にして、いま私たちはそれぞれに定めるテーマに向かって、単独の航海を続けている。

作家コラム 盲目的な営みにならないように

この展覧会は、約1年の準備期間を経て開催された。テーマ設定や企画立案、チラシ・ポスターの作成などを通して、アイデアをまとめる難しさやスケジュール管理の重要性などを学んだ。なかでも、展覧会を訪れた来場者の反応を何度もシミュレーションし、企画を練り上げていった時間が最も強く印象に残っている。展覧会は鑑賞者が存在することで初めて成り立つ。この展覧会は作品配置から動線まで、作品展を見慣れている人だけでなく、普段美術館で展示を見る機会が

少ない人にも興味を持ってもらえるような仕掛けを施した。そしてモデルルームという特殊な展示環境、各自の作品や表現の性質を活かした展示構成の試行錯誤を繰り返したことで、「どう見せていけば作品が最も輝くのか」、「どのような条件だと作品が良く見えたか」という気づきを得られた。

また、企画段階で第三者からの意見が得られたことで、客観的な判断材料を取り入れながら構成を考えることができた。長い期間スタッフの方と並走して展

多摩美術大学絵画学科版画専攻4年有志 代表 クニモチユリ

覧会を作り上げていくうちに、内側ではなく外側に向けて発信していくための基礎的な力が培われていったように思う。自分達の企画を受け入れ、時に見守り、最大限のサポートをしていただいたスタッフの方へ感謝が尽きない。今後も、第三者に作品を見てもらうとした時に、その行為が内に閉じたものにならないよう、今回鑑賞者を意識して準備を重ねてきた時間を深く胸に留めておきたい。



女子美術大学×アートラボはしもと連携プロジェクト

DIVERSITY IN LIFE

多文化交流～制作の現場から

会期 | 令和元年11月23日(土・祝)・24日(日)・30日(土)・12月1日(日)・7日(土)・8日(日)
 会場 | アートラボはしもと
 主催 | 女子美術大学
 共催 | アートラボはしもと(相模原市)
 後援 | アートラボはしもと事業推進協議会(女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)

「ダイバーシティ(多様性)」をテーマに、女子美術大学の留学生と日本人学生とで7組のペアまたはグループを組み、コミュニケーションをとりながら共同制作するプロジェクトです。

学生同士で出身地や文化などについて話し合いを重ねた結果から浮かび上がった「飲み物」「迷路」「手紙」「食器」「水」などのキーワードをもとに制作。モザイクアートを食器に施し家族を表現した作品や、夏休みの帰省中にメンバー間で送り合った手紙と地図を配置したインスタレーション作品など、さまざまなアプローチ方法による作品が生まれました。会場には、各組の作品や制作過程の記録などを展示したほか、イベントも多数実施し、来場者と一緒に多様性について考えました。

トーク

公開制作「3分でわかるプロセスの絵」& 学生による展示作品プレゼンテーション

日時 | 令和元年11月23日(土・祝) 13:00~15:30
 参加学生が制作の過程を即興で描いた絵巻物を用いて、展示作品の解説や制作中のエピソードなどについて発表しました。



公開制作

トーク

みんなでディスカッション 「アートにおける多文化交流の未来」

日時 | 令和元年11月23日(土・祝) 15:30~17:00
 登壇者 | 福土朋子(女子美術大学教授)、阿部大介(女子美術大学准教授)、リンダ・デニス(女子美術大学准教授)

担当教員がこれまでに関わった、「協働」や「多文化交流」がテーマのアート活動を紹介し、「多様性」について参加者と議論しました。



プレゼンテーション

ワークショップ

卵のからでモザイクアートをつくらう

日時 | 令和元年12月1日(日) 14:00~16:00
 講師 | 入野珠音、蔡穎、深澤美星(参加学生)

参加者が友人や親など特定の人物をイメージしながら、さまざまな色の卵のからを粘土に貼り付けるモザイクアートを制作しました。



ミーティング



制作・設営



公開制作



プレゼンテーション

参加学生の声

- 共同制作を通して留学生と交流を深めることができたと同時に、個々の違いを再認識することで多様性の中で生じる利点や問題を考える良い機会となりました。
- 他人と協力して作品を作る経験ができたことは、私にとって収穫が非常に多かったです。キャンパスではない空間で作業することも新鮮でした。

来場者・WS参加者の声

- 若い方の作品を通していろいろな物の見方や考え方などとても興味深く、見た話したりできてよかったです。(来場者)
- 卵のからに色を塗るとこんなに美しいのかと大人の私にも大変勉強になりました。また子どもたちと家でもやってみたいと思います。(WS参加者)

多摩美術大学PBL科目との連携事業

宇宙×人工衛星×アート

日時 | 令和元年12月14日(土) 14:00~17:00
 会場 | アートラボはしもと
 主催 | 多摩美術大学
 共催 | アートラボはしもと(相模原市)、種子島宇宙芸術祭実行委員会
 後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
 (女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)
 助成 | 平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

多摩美術大学が開講する実践型授業「PBL科目」の「コミュニティアート」の受講生たちのプロデュースによる、多摩美術大学・JAXA(宇宙航空研究開発機構)・種子島宇宙芸術祭のコラボレーションプログラムです。

専門分野の異なる芸術祭関係者が登壇し、芸術祭での自身の活動やそれぞれの立場から見た芸術祭について語るトークイベント、芸術祭参加アーティストの制作を体験するWS、作品展示を行いました。

トーク

宇宙×人工衛星×アート ~人はなぜ宇宙を目指すのか~

日時 | 令和元年12月14日(土) 14:00~15:15
 登壇者 | 古川欣司(JAXA第一宇宙技術部門衛星利用運用センター主幹研究開発員)、森脇裕之(種子島宇宙芸術祭総合ディレクター、多摩美術大学情報デザイン学科教授)、黒田恵枝(アーティスト、多摩美術大学情報デザイン学科卒業)
 進行 | 小山田裕彦(種子島宇宙芸術祭実行委員)

衛星開発技術者が目指す人類の未来や探求心と、アーティストが感じる仲間意識や自分探しの旅といった、芸術祭に参加したことで見えてきた両者の共通点を軸に、芸術祭の会場で展示されたコラボレーション作品などについてトークしました。



ワークショップ

空想して描く、新しい仲間もけもけ

日時 | 令和元年12月14日(土) 15:30~17:00
 講師 | 黒田恵枝

古着から不思議な生き物「もけもけ」を生み出す講師の制作に基づき、さまざまな生き物のイメージを組み合わせ「もけもけ」の仲間を描きました。完成後は参加者それぞれの個性豊かな「もけもけ」を発表しました。



ワークショップ 立ち寄り式工作プログラム

工作あそび

主催 | アートラボはしもと(相模原市)
 後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
 (女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)

「工作あそび」は市民が気軽に当館に立ち寄って参加できる工作プログラムです。毎回さまざまな技法を取り入れ、未就学児から大人まで幅広い年代の方々に楽しんでいただける工作を実施しています。今年度は新たにアーティストを講師に迎え、より特殊な素材を用いた内容で開催することができました。

ペタペタ☆光るこいのぼり作り

日時 | 令和元年5月4日(土・祝)・5日(日・祝) 14:00~16:00
 会場 | アートラボはしもと
 講師 | 中村花絵

版画家、女子美術大学非常勤講師、日本版画協会準会員。身近なメディアの真偽性や不正確さの形を借り、現代社会に継承されてきた記録の所在について考察しながら制作している。



当館には日光が差し込む大きなガラス張りの部屋があり、隣には黒い壁に覆われた部屋があります。その位置関係に着目した中村氏が、実験を重ねて考案した蓄光塗料を使用した光るこいのぼりづくりを行いました。暗闇のなかで目や鱗が明るく浮かび上がると、参加者からは歓声が上がりました。



参加者の声

- 暗い部屋で実際に光るところを見て、喜んだ(子どもの)姿を見て良かった。2歳の子、小学生の子、みんなで楽しめる内容で良かった。
- 先生が蓄光塗料を予め塗布してくださっているので、安全で短時間に工作ができました。大人も童心に戻って楽しめるようなWSでした。

絵の具のシャワーでアジサイ作り!



日時 | 令和元年6月8日(土)・9日(日) 14:00~16:00
 会場 | アートラボはしもと

タワシで網を擦り、絵の具を散布する「スパッタリング」の技法を用いて、アジサイの花びらを表現したカードを作りました。

参加者の声

- 網戸を使ってタワシでこするという普段家ではできない方法で色付けする。子どもたちはこの物めずらしさも、とても楽しそうでした。

工作あそび番外編!
 お願い☆流れ星!



日時 | 令和元年8月9日(金) 12:00~15:00
 会場 | アリオ橋本

当館に隣接する商業施設で実施した出張工作あそび。画用紙で流れ星をつくり、その尾に願い事を書きます。これを宇宙空間(扇風機の風がたなびく撮影コーナー)で撮影し、うまく撮れたら願い事が叶う、という七夕(旧暦)に合わせた内容でした。多くの買い物客が、思い思いの願いを流れ星に託していました。また、当日はインターンシップ生がスタッフとして対応しました。

ワークショップ 親子ではじめてアート

色と線で楽しむ
 クリスマスカード作り

日時 | 令和元年11月29日(金) 11:00~12:00
 会場 | アートラボはしもと
 主催 | アートラボはしもと(相模原市)
 後援 | アートラボはしもと事業推進協議会
 (女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学・相模原市)

美術史上の作品の紹介と、手軽な工作体験を行う平日開催のプログラムです。未就学児とその保護者を対象に「デカルコマニー」の技法を使って、親子でカラフルなクリスマスカードを作りました。



その他 アートラボ図工室

日時 | 平成31年4月27日(土)~令和元年6月17日(月) 10:00~17:00
 会場 | アートラボはしもと
 主催 | アートラボはしもと(相模原市)

いつでも・だれでも工作できるコーナーです。ストローをつなげてさまざまな形をつくり、壁紙に大きく絵を描いたり、参加者が自由に工作を楽しむ場であると同時に、散歩途中の親子や学校帰りの小学生などが連日立ち寄ったことで、来場者同士の交流の場にもなりました。



その他 学校受け入れ

小学校の課外授業、中学校の職場体験、博物館学芸員実習やインターンシップなど、市内外の学生を受け入れました。

- 橋本小学校 ・根小屋小学校 ・上満南中学校 ・由野台中学校
- 博物館学芸員実習(大学7校) ・大学生インターンシップ(大学3校)

根小屋小学校特別支援学級校外授業
 「カラフル魚拓をつくろう!」



博物館学芸員実習



アートラボをとり出せ！アウトリーチプログラム！

市内各地域の活動のリーサーやイベントへの参加など、当館ではさまざまなアウトリーチ(出張)プログラムを実施しています。

ワークショップ まち×ラボ ワークショップ 山寺の柳田國男に葱と南瓜を届けよう！



日時 | 令和元年11月17日(日) 10:00~15:00
会場 | 古家カフェ&ギャラリー たねまめ
臨濟宗大智山 正覚寺
相模湖林間公園駐車場
主催 | たねまめマルシェ実行委員会
後援 | 相模原市

「まち×ラボ」は、さまざまなフィールドで活躍する専門家とプログラムを企画し、アートを介した市民の交流と地域の活性化を目指す取り組みです。今回は、市内各地で開催されている催しをリサーチし、相模湖の古家カフェ&ギャラリー「たねまめ」や、「正覚寺」などで開催された「たねまめマルシェ2019」の会場でWSを実施しました。民俗学者の柳田國男が日本初の共同現地調査を行った際に、正覚寺で「山寺や葱と南瓜の十日間」という句を詠んだというエピソードをもとに、WSはネギやカボチャを和紙などで作り正覚寺に届けると、けんちん汁がもらえるという内容にしました。本WSはイベントを盛り上げると同時に、参加者が地域の歴史を知る機会にもなりました。



アートラボWS会場 | さまざまな色合い、質感の和紙を組み合わせて、個性豊かなネギ・カボチャがつけられました。



たねまめ会場 | クラフト作家による作品や無農薬野菜、コーヒーなどの販売、工作WS、音楽ライブなどが行われました。



正覚寺会場 | 柳田國男に扮したスタッフのもとにネギとカボチャがたくさん届け、参加者にはけんちん汁がふるまわれました。

ワークショップ 第41回造形「さがみ風っ子展」への参加協力

日時 | 令和元年10月26日(土)・27日(日) 10:00~15:00
会場 | 淵野辺公園
主催 | 第41回造形「さがみ風っ子展」実行委員会
協力 | 相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
ジオラマ制作 | 泉啓司、森本一朗(STUDIOカタクリコ)

市内の小・中学生などによる全国最大規模の野外作品展に参加。中学校の美術部員がカメラを手に会場を取材し、大きな壁新聞をつくりました。また、会場近隣にある、S.O.S.(P7-10)の参加スタジオ「STUDIOカタクリコ」所属アーティストによる、会場周辺をモチーフにしたジオラマ作品も展示されました。



ワークショップ

児童クラブ 定期ワークショップ

会場 | 旭児童クラブ・小山児童クラブ

2つの児童クラブから依頼を受け、季節に合わせた内容の出張WSを実施しました。児童がアートに親しむ機会となったほか、ハロウィーンに関連したWSは博物館学芸員実習生が企画・運営し、学生たちの実践の場にもなりました。



絵の具のシャワーでアジサイカード！

日時 | 令和元年5月27日(月) 10:00~12:00、6月10日(月)・14日(金) 15:00~16:30

網とタワシを使って絵の具を画用紙の上に飛び散らせる「スパッタリング」技法に挑戦し、さまざまな色でアジサイを彩りました。



あみあみくも★ハロウィーンキャッチャー

日時 | 令和元年9月20日(金) 14:00~15:30

紙皿に穴を開けて毛糸を通したクモの巣と、モールとスプーンでつくったクモで、ハロウィーンにぴったりの壁飾りをつくりました。



ハロウィーンの仮面をつくってパーティーに参加しよう

日時 | 令和元年9月27日(金) 15:00~16:30

コウモリやネコなどをかたどった台紙に、「ちぎり絵」の技法を用いて色紙を飾り付け、オリジナルの仮面をつくりました。

ワークショップ

「キッズ★フェスタ2019」への参加協力

日時 | 平成31年4月20日(土) 10:00~12:00
会場 | 市立図書館
主催 | 市立図書館

当館は市立図書館主催の「キッズ★フェスタ」に毎年参加しています。今年度は女子美術大学の「児童美術研究部」の学生を講師に迎えて「作って遊ぼう!きよきよるフレンド」というおもちゃづくりのWSを実施し、当団体の活動を周知するとともにイベントを活気づけました。



ワークショップ

「第68回橋本七夕まつり」への参加協力

日時 | 令和元年8月4日(日) 13:00~18:00
会場 | ソレイユさがみ
主催 | 橋本七夕まつり実行委員会

工作あそび「お願い☆流れ星!」(P15)を第68回橋本七夕まつりの会場で実施し、お祭りのムードをより高めました。



その他 学芸員派遣

当館の学芸員が依頼を受けた市内外の学校を訪問し、学芸員の仕事や、社会におけるアートの役割などについて特別授業や講義を行いました。



- 派遣先
- 相陽中学校
 - 神奈川県立弥栄高等学校
 - 女子美術大学
 - 玉川大学

多摩美術大学PBL授業から 創造的な対話へ。

アートラボはしもとの これまでとこれから



多摩美術大学教授
森脇 裕之

【もりわき ひろゆき】
1964年生まれ。筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻修了。学生時代より、ライト・アート、キネティック・アートの作品制作を始める。LEDなどの光るパーツを用いたインタラクティブなインスタレーション作品で知られる。人の影に反応する「レイヨ＝グラフィアー」(1991年)などの代表作では、電子パーツそのものが重要な作品要素となっている。「種子島宇宙芸術祭」(2017年～)総合ディレクター。

アートラボはしもとの事業のなかで、多摩美術大学として関わってきたPBLコミュニティアートの授業のお話をしようと思います。多摩美術大学にはPBL(Project Based Learning)という大学の外と連携して行う授業のしくみがあって、コミュニティアートの授業では、地域を巻き込むアートプロジェクトを企画することをテーマとしています。

アートを基軸にした地域振興の事例が、全国でも多くみられるように、これは人と人をつなぎ、社会のなかで機能するアートのあり方を研究し、それを実行できるような人材を育成することを目的としたカリキュラムです。このように積極的に地域と連携して行う実践的なプログラムは、キャンパスに閉じこもって学べるものではありません。

多摩美術大学の場合、通学に橋本駅を利用する学生やその周辺に住む学生も多いのですが、案外出会いの接点は見当たらず、周辺地域との関わり合いが少ないのが現状です。橋本地区の市民の方々には、美大生



「ほっこりえんがわTV」の一場面(2018年)

の真の姿が伝わっていないように思います。

美術大学に通う学生というのは、どのような存在なのか。アートラボはしもとのPBL授業は、市民のみなさんにその認識を深めてもらうことに力を注いできました。そのためには、お互いの出会いが必要ということで、過去に橋本で活動するシニア市民交流グループに協力してもらい、橋本駅周辺をロケ地にした番組作りを行いました。

「ほっこりえんがわTV上映会」(2018年)というその企画は、橋本をよく知ってもらうための「ほっこり」としたネタをクイズ番組風にしたリ、街かどインタビュー形式にしたリ、道行く人も巻き込んでTV番組風な映像制作を行いました。そのなかでシニアの方々にはキャスターやクイズの回答者として出演してもらっています。当初は戸惑いを隠せなかった方々も、学生の企画に巻き込まれる形になって、番組完成後にアートラボはしもとの上映会を開催したときには、学生たちをまるで孫のようにかわいがってくれるまでになりました。アートラボはしもとの仲介をお願いしたことで、シニアの方々と学生たちの出会いが生まれたのです。

幅広い世代間交流などを課題テーマに取り組みを始めると、地域アートに関わる問題意識が浮かびあがってきます。最初からうまくいくはずもなく、プロジェクトのなかでさまざまな問題がのしかかってきます。問題の解決策をいかに創造的に用意することができるか、その先導者として人を惹きつけていく感覚は、アートによる美意識をもって洗練されてゆくものだと思います。リーダー不在といわれている現代社会でPBLの学生たちは、主導的にアートの持つポテンシャルを正しく伝えるメッセンジャーとして、役割を果たしてきました。

PBLの活動を通じて、美大生の考えていることがはっきりとかたちになり、参加してくれた人たちの姿が、今まで以上によく見えてくるようになりました。そればかりではなく献身的に支えてくれたアートラボはしもとのスタッフなど、アートの主役は関わりを持った全ての人であることを、あらためて認識させられました。

これまでPBL授業としてアートラボはしもとの連携事業を展開してきましたが、総体として見えてきたこの創造的なコミュニティのなかで、授業という形式で美大生と地域の方々の相互交流が行われることについて、まだ取り組みが十分であるとはいえません。

アートラボはしもとの事業が評価されて整備検討委員会が設置され、近く本格的な活動を始動するためにリニューアルの計画が進んでいます。それに伴い、今後の本学とアートラボはしもとの連携事業は、創造的な相互交流のなかから生まれる、だれもが主役になれるようなクリエイティブな活動を、実験を推進しながらめざすべきであると考えています。



当館での上映会の様子(2018年)

あえて社会の裂け目を 探して、のぞきたい。 まなざしの交換のために。



女子美術大学教授
大森 悟

【おもひ さとる】
1969年茨城県常陸大宮市生まれ。1999年東京藝術大学大学院美術研究科博士後課程修了。美術博士。身体感覚や現象学に着目し、暗室での光や映像を用いたインスタレーション、光の反射作用を用いた絵画作品など、さまざまな手法で表現と理論を展開している。近年は、美術館や企業、自治体などとの連携プロジェクトを実践している。相模原市文化振興審議会会長。

Art Laboratoryという「アートの実験の場」に含まれる機能を挙げるとすれば、美術館や博物館などの社会的なイデオロギーを捕捉したエデュケーションの実践というだけでは足りず、これまで全く試みて来られなかった新たな芸術の仕組みを作り出すことなのではないか。

そのような機会を得ていこうとすれば表現する側も鑑賞する側も既存の芸術の在り様から意識的に遠ざかることにもなり、その反動として社会的な価値観や慣習の深部にある人間の欲望と欲求を捉え直していくことを可能にしてくれる。

私に関わった「cross references」(2017年)では、当時女子美術大学美術館の学芸員であった岸本紗和子さんと、女子美術大学大学院修士生の沼下桂子さんにキュレーションをお願いして、アートラボの方々と打ち合わせを行った当初の段階から「協働」と「ケーススタディ」というキーワードが出ていた。そして、その継続展開としての企画「self-re-location」(2018年)では「協働」のなかにある距離感を多角的に考察し、アーティストにとっての「言葉」や「モノとコト」の関係性も取り上げ、実験的なプロジェクトに落とし込んでいった。

「アートラボはしもと」だから試みることができたともいえるこの企画内容は、前述したラボとしての機能と、その立地条件が大きく関わっている。大型ショッピングモールに隣接した住宅展示場という、日本の暮らしの未来の夢と希望を生み出す象徴的な建物をリノベーションしている「アートラボはしもと」には、仮設、空想、想像の要素が似合い、それらを可視化するにはもってこいの場だと直感したからだ。それらの要素の前後には生活という日常が関係づけられていくことも予感されて、アーティストも含めた一人一人の人間の「言葉」と「モノとコト」の背後に広がるさまざまな思想と時間を直に感じ取りながら、新たな物事や人々との接続を通して人間の望みを知る機会になることを期待していた。しかし、現実には一定の成果と結果は得たものの、この地域コミュニティとの接続は達成できなかったように思う。

アートラボを起点にして少し広域に捉えれば、相模原市という潜在的な多様性を兼ね備えた環境は国内でも有数の魅力的なアートフィールド

で、この固有の地域にアプローチする術を見出し、その結果をアートとして提案する試みは今後の文化芸術の展開を占う上でも非常に重要な意味を持つのだ。

「第3次さがみはら文化芸術振興プラン」※1の検討・評価を担う相模原市文化振興審議会に関わってきたことで、相模原市は人口72万人を擁する政令指定都市でありながら、意外にも文化芸術関連の施設の数も少なく、また利用率も低いという課題が見えてきた。これは、新たなアクティビティの企画を増やすこと、企画を継続することの問題であり、アートラボもその課題を抱えているといえる。

この課題に今後取り組むためには、単に文化施設の数的な安定性と構造を構築することだけではなく、アーティストと鑑賞者が何を必要として、期待して、暮らしていくのかをもっと素直に出し合い、その価値観を包摂するような新機軸の関係性を生み出せるかが問われている。アーティストも地域社会から学ぶ機会を必要としているし、またその結果が社会的相互作用として機能していくことを望んでいるはずだ。そのような機会に触れなければアーティストに多くの場が与えられたとしても閉鎖的なアートプラクティスの繰り返ししか生み出せず、アーティストとしての将来的な成長も望めないし、文化芸術の発展も望めない。また、市民にとっても日常的な活動の延長にアートが結ばれていく仕組みがない限り、ある特定のカテゴリーの催し物に参加し、さらにオーナーシップの意識が生まれることも稀なことだろう。

これらの課題と問題を改善するためには、地産地消のように地域で生産されたものをその地域で消費する流れの芸術バージョンが必要となってくる。つまり、まずは地域に目を向け芸術や文化の再評価や再認識をしていく行程から始めることが大切で、その結果見えてきたものには自ずと現代的な価値観も含まれているため多くの人が受容しやすい文化芸術の表象に生まれ変わっているのだ。この誰にでも分かりやすくなった文化芸術をテーマにした新たなアクティビティの機会が増えれば、多様な分野を横断し接続できる可能性とともにアートラボや相模原市固有の地域文化の振興を図ることになる。

地域文化の振興を図るために性急に対応すべき課題として、現時点で誰が文化経済戦略のオーナーシップを持っているのかを明確に示していくこと、柔軟でメリハリのある文化予算の編成とそのための相互理解のシステム構築などが必要なのではないだろうか。



第3次さがみはら文化芸術振興プラン

※1.「第3次さがみはら文化芸術振興プラン」は、文化芸術振興の目標や取り組み施策を明らかにし、相模原市の文化芸術振興施策を推進することにより、個性豊かな地域社会を実現するとともに、全ての市民が文化芸術に関する活動を行う社会の実現に寄与することを目的として策定するものです。
【第3次さがみはら文化芸術振興プラン】は、本市HP内「さがみはら文化芸術振興プラン」ページよりご覧いただけます。(令和2年8月現在)

2019年度事業一覧

アートラボが主催する事業
地域のアーティストなどの連携事業
市内施設・団体との連携事業、市内の催しへの出張WSなど
小学校や児童クラブとの連携事業による出張WSや団体受け入れ
アートラボが協定を結んでいる4大学(女子美術大学、多摩美術大学、桜美林大学、東京造形大学)または学生団体などの共催事業
新型コロナウイルスに配慮し、開催を中止または延期した事業

事業名	会期	来場数	分類	プログラム名	実施日	参加数	講師	ページ
市立図書館・アートラボはしもと連携事業「キッズ★フェスタ2019」	2019/4/20	80	WS	作って遊ぼう!きよきよフレンド	2019/4/20	80	女子美術大学サークル「児童美術研究部」	18
市立図書館・アートラボはしもと連携事業「つくっちゃおうかみしばい!第5幕」成果発表・展示	2019/4/20	54	公演	こども手作り紙芝居会	2019/4/20	7	-	-
	2019/5/5	48	公演	こどもたちとほっこり座の手作り紙芝居会	2019/5/5	7		
	2019/6/8~17	668	展示	自由に遊べる紙芝居コーナー	2019/6/8~17	14		
2019年春の工作コーナー「アートラボ工房」	2019/4/27~6/17	2189	工作	ひもで作ろうカラフルアニマル	2019/4/27~6/17	-	当館美術専門員	16
			工作	どんどんつなごうストローチェーン				
			工作	ねんどでべったんもよう遊び				
			工作	思いっきりらくがき!				
児童クラブ定期ワークショップ	-	-	WS	絵の具のシャワーでアジサイカード!	2019/5/27	41	当館美術専門員	18
			WS	あみあみくも★ハロウィーンキャッチャー	2019/9/20	82		
			WS	ハロウィーンの仮面をつくってパーティーに参加しよう	2019/9/27	90		
立ち寄り式工作プログラム 工作あそび	-	-	WS	ベタベタ☆光るこいのぼり作り	2019/5/4・5	130	中村花絵	15
			WS	絵の具のシャワーでアジサイ作り!	2019/6/8・9	169	当館美術専門員	
			WS	お願い☆流れ星!(会場:アリオ橋本)	2019/8/9	50	当館学芸員、当館美術専門員、インターンシップ生	
第68回橋本七夕まつり	2019/8/4	85	WS	お願い☆流れ星!(会場:ソレイユさがみ)	2019/8/4	85	当館学芸員、当館美術専門員、博物館学芸員実習生	18
オープンラボ2019	2019/7/27~9/1	1820	その他	公開制作	2019/7/27~8/18	-	-	3-6
			WS	うれしい形をつくろう!	2019/7/28・8/3	20	冠婚葬祭	
			WS	木版画で自分だけの世界をつくろう!	2019/8/11・18	31	たうもっく	
			WS	玄関に飾る絵を描こう!	2019/8/17	7	風景のありか	
			展示	成果発表	2019/8/24~9/1	-	-	
			トーク	アーティストトーク	2019/8/24	30	冠婚葬祭、たうもっく、風景のありか	
			工作	みんなの図工室	2019/7/27~9/1	580	当館美術専門員、博物館学芸員実習生	
MODELROOMING×HASHIMOTATION	2019/9/7・8・14・15・16・21・22・23	516	展示	作品展示	2019/9/7・8・14・15・16・21・22・23	-	-	11
			WS	オリジナル観光パントを作ろう!	2019/9/7	4	風景のありか	
SUPER OPEN STUDIO 2019	2019/10/12~11/4	4232	その他	スタジオ公開(訪問者数2328人)	2019/10/12・13・14・19・20・22・26・27・11/2・3・4	-	-	7-10
			その他	スタジオステイ	2019/10/12~11/4	-	青田真也、今村育子、黒田天心、櫻見菜々子、川上大雅、北村和也、進藤冬華、高橋晋代史、竹崎和征、武田浩志、西田朝司、山本雄基	
			展示	SOMETHINKS	2019/10/12~11/4	-	-	
			WS	不思議な1ページの絵本	2019/10/20	7	渡壁暹	
			トーク	美術のプレゼンスを確保するために#2	2019/11/3	68	天野太郎、青田真也、川崎達、竹崎和征、塚本麻莉、中尾英恵、日比谷安希子、山根一見、山本雄基、当館学芸員	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(1)	2019/10/20	17	長尾郁明、水上愛美、渡邊庸平	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(2)	2019/10/26	11	大槻英世、鈴木飛馬	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(3)	2019/10/26	9	大槻英世、渡壁暹	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(4)	2019/10/27	21	大槻英世、TODO	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(5)	2019/10/27	18	内海仁、松本菜々	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(6)	2019/11/2	17	内海仁、松本菜々	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(7)	2019/11/2	18	内海仁、松本菜々	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(8)	2019/11/3	21	山根一見、当館学芸員	
			ツアー	スタジオビジット・バスツアー(9)	2019/11/3	17	大槻英世、渡壁暹	
ツアー	スタジオビジット・バスツアー(10)	2019/11/4	20	久野真明、ナカバヤシアリサ				
ツアー	スタジオビジット・バスツアー(11)	2019/11/4	20	大迫春菜、久野真明				

◇2019/10/12・13は令和元年東日本台風の影響により、当該プログラムを中止した。

事業名	会期	来場数	分類	プログラム名	実施日	参加数	講師	ページ			
第41回造形「さがみ風っ子展」	2019/10/26~28	76	WS	カシャカシャ風っ子カメラマン	2019/10/26・27	76	当館学芸員、当館美術専門員	17			
		-	その他	造形「さがみ風っ子展」における合評会	2019/10/28	-	当館学芸員				
アートラボはしもとアウトリーチ事業「まち×ラボワークショップ」	2019/11/17	45	WS	山寺の柳田園男に葱と南瓜を届けよう!	2019/11/17	45	当館学芸員、当館美術専門員	17			
女子美術大学×アートラボはしもと連携プロジェクト「DIVERSITY IN LIFE 多文化交流〜制作の現場から」	2019/11/23・24・30・12/1・7・8	386	展示	作品展示	2019/11/23・24・30・12/1・7・8	-	-	13-14			
			その他	公開制作「3分でわかるプロセスの絵」	2019/11/23	27	参加作家、当館学芸員				
			トーク	学生による展示作品プレゼンテーション	2019/11/23	30	阿部大介、福士朋子、リンダ・デニス				
			トーク	みんなでディスカッション「アートにおける多文化交流の未来」	2019/11/23	30	阿部大介、福士朋子、リンダ・デニス				
			WS	卵のからでモザイクアートをつくろう	2019/12/1	40	入戸野珠音、蔡穎、深澤美星				
親子ではじめてアート	2019/11/29	4	WS	色と線で楽しむクリスマスカード作り	2019/11/29	4	当館学芸員、当館美術専門員	16			
多摩美術大学PBL科目との連携事業 宇宙芸術トーク&ワークショップ「宇宙×人工衛星×アート」	2019/12/14	83	トーク	宇宙×人工衛星×アート〜人はなぜ宇宙を目指すのか〜	2019/12/14	24	黒田恵枝、小山田裕彦、古川欣司、森脇裕之	14			
			WS	空想して描く、新しい仲間もけけ		14	黒田恵枝				
			展示	作品展示		-	-				
多摩美術大学絵画学科版画専攻4年有志校外展「動き出す背景」	2020/1/16~26	400	展示	作品展示	2020/1/16~26	-	-	12			
			トーク	拡張する展覧会の土台、またその動向について	2020/1/25	21	内田百合香、クニモチユリ、胡蘭華、中庭惠穂、清良奈央、船戸厚志、宮崎咲希、谷内尾恵				
根小屋小学校特別支援学級校外授業	2020/2/20	9	WS	カラフル魚拓をつくろう!	2020/2/20	9	当館学芸員、当館美術専門員	16			
令和元年度博物館学芸員実習	2019/7/19・21・25~9/2・8・20・27・29	-	その他	「オープンラボ2019」関連プログラムの補助、「橋本七夕まつり」出張工作プログラムの補助、「みんなの図工室」の運営など	2019/7/19・21・25~9/2・8・20・27・29	20	当館学芸員、当館美術専門員	16			
大学生インターンシップ受け入れ	2019/8/3・5・6・9・22・23・9/2	-	その他	第68回橋本七夕まつり「お願い☆流れ星!」準備、美術資料調査・まとめ、作品展示補助作業など	2019/8/3・5・6・9・22・23・9/2	3	当館学芸員、当館美術専門員	16			
その他	-	-	その他	桜美林大学映画専攻学生による撮影立ち会い	2019/6/9・10	13	-	-			
			その他	橋本小学校3年校外授業「わたしたちの町 橋本」対応	2019/6/14	41	当館学芸員	16			
			その他	東京造形大学映画・映像専攻学生による撮影立ち会い	2019/6/27	7	-	-			
			その他	神奈川県立弥栄高等学校「学芸員の仕事」	2019/7/4	7	当館学芸員	18			
			その他	神奈川県立小笠原高等学校「学芸員の仕事」	2019/7/5・2020/1/24	19	-	-			
			その他	玉川大学「博物館概論」	2019/7/22	45	当館学芸員	18			
			その他	相模中学校生涯学習まちかど講座	2019/9/13	33	当館学芸員	18			
			その他	橋本小学校2年校外授業「まちたんけん」対応	2019/11/7	41	当館学芸員	16			
			その他	女子美術大学講義公共学習ゼミ	2019/11/8	112	当館学芸員	18			
			その他	由野中学校 職場体験	2019/11/28・29	3	-	16			
			その他	上溝南中学校「相模原市校外学習」	2019/11/29	20	-	16			
			その他	多摩美術大学彫刻学科学生による撮影立ち会い	2019/12/3	3	-	-			
			立ち寄り式工作プログラム 工作あそび	2020/2/22・23	-	WS	ねん土でねんなんランド	中止	-	大迫春菜	-
			アートラボはしもと×桜美林大学×橋本図書館×社のホールはしもと連携事業「マジカル学園 in はしもと〜集まれ魔法使い〜」	2020/3/1	-	WS	マジカル芸術体験	中止	-	桜美林大学パフォーマンス・インスティテュート	-
公演	演劇公演「マジカル学園珍騒動」										
WS	工作体験「魔法使いとつくる★マジカルスティック!」										
新磯小学校特別支援学級校外授業	2020/3/6	-	WS	カラフル魚拓をつくろう!	中止	-	当館学芸員、当館美術専門員	-			
フォトシティさがみはら2019 一般写真教室事業	2020/3/7・4/3~19	-	WS	一般写真教室	中止	-	-	-			
			展示	成果展示							
市立図書館・アートラボはしもと連携事業「つくっちゃおうかみしばい!第6幕」	2020/3/20・22	-	WS	紙芝居制作・実演実習	中止	-	本多ちかこ	-			
多摩美術大学PBL科目との連携事業「はしもとアートシティ2020」	2020/3/28	-	展示	ビッグイベント	延期	-	-	-			
			その他	フリーマーケット							
			展示	作品展示・発表							
展覧会等 来場者数計		10695	プログラム 参加者数計				2447				